

# Zoom よもやま



JECCS 参与 木戸友幸

2020年春頃から勢いを増してきた日本のコロナ禍で、企業の在宅勤務、大学や語学学校の遠隔授業が増えてきました。この遠隔作業の手段として世界的に需要が急拡大してきたのが Zoom です。

私は情報收拾と連絡手段として必要にかられ、これまでネットに繋いだパソコンを利用してきましたが、電子情報機器に強い方ではまったくありません。しかし、今回は必要にかられ、この Zoom を使わざると得なくなりました。2020年春にまず、医療関係の研究会/学会やその準備の会議が Zoom を使った遠隔参加になってきたのです。しかし、使い始めてみると、これがなかなか使い勝手がいいのです。まず、参加者に必要なパソコンは比較的最近に購入したものなら機種は何でもいいのです。因みに私はこの30年来アップルコンピュータ (Mac) を使っていますが、全く問題なしです。また参加者は特別なソフトを備える必要もありません。主催者側から送られる会の日時や URL に合わせ、ただ参加するだけでいいのです。会議では、音声と発言者の画像が出てきます。ですから、音声や文字だけの会議とは全く次元が違う臨場感があります。また図表などを映し出すことも可能です。ということで、職業上の遠隔会議や、産業医の遠隔面談は全く違和感なくできるようになりました。ここまでは、医師の読者の方だと、同じような体験をしてきておられると思いますので、少し医療から離れた Zoom 体験もご紹介します。



実は私は医学生時代にフランス語も勉強しており、1995年からの2年半はパリの病院で仕事をしていたこともあるのです。フランスから帰国してからの20年間の開業医時代はフランス語の勉強もそれを使う機会もあまりなかったのですが、開業を辞めた2016年に一念発起して、



普通っていたアンスティテュ・フランセ (旧アリアンス・フランセーズ) というフランス語学校の夜間コースに週一回通うようになりました。しかし、ここも2020年の春学期から Zoom による遠隔授業になったのです。その頃には何度か職業上の会議で Zoom を利用していたので、遠隔授業という形態には不安はありませんでした。ところが蓋を開けてみると、不安どころか、語学教育には Zoom が最適ということが判明したのです。まず、夜間クラスは長年フランス語に親しんでいる高齢者の生徒 (と書いている私も2021年9月で70歳ですが) が多いのです。一般的に高齢者は電子機器に不慣れで、そのため遠隔授業になり生徒数が激減したのです。コロナ前には1クラス10人は生徒がいたのですが、初回の遠隔授業である2020年春学期の我々のクラスの生徒数は何と4人だったのです。

それから 21 年 8 月現在まで生徒数は多くて 5 人で経過しています。授業料は同じで、一回 2 時間の授業で先生とフランス語でやりとりする時間は、コロナ前に比べ 2 倍になります。そしてオリジナルの生徒 4 人はこの 1 年あまり、ずっと同メンバーなので、生徒間それに先生一生徒間の絆も強くなります。ということで、フランス語勉強の費用対効果は遠隔になり倍増したわけです。そんなセコイ勘定を離れても、Zoom のようなネット機器は語学教育には非常に向いているのです。



例えば話題のやりとりで出てきた植物や動物の名前がフランス語の説明だけでは理解しにくければ、カラーの写真や動画をたちどころに映し出すことができます。また、音楽が語られているときは、youtube で特定の歌手の歌唱を体験できます。我々のクラスは、その時々主にフランスを中心とするヨーロッパの社会現象に関する報道についてフランス語で討論するのですが、その議論の途中で、参考意見として、過去のテレビニュースの映像を映し出すこともできます。というわけで、今ではコロナ禍が落ち着いてからも、ずっと遠隔授業でもいいかなと思っているくらいです。でも、年 4 回ある学期間の休講日だけにはクラスの仲間と先生とで実際に顔を合わせるオフ会を開きたいと思い、その日が来るのを待ち遠しく思っています。

